

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 18 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20592540

研究課題名（和文） 若年乳がん生存者の情報ニーズに応じた支援プログラムの開発

研究課題名（英文） Developing a support program for the unmet information needs in young breast cancer survivors

研究代表者

宮下 美香 (MIYASHITA MIKA)

広島大学・大学院保健学研究科・教授

研究者番号：60347424

研究成果の概要（和文）：

若年乳がん患者の情報ニーズをフォーカスグループディスカッションにより調査し、医学的な事柄、心理社会的な事柄を含めた多岐に渡る情報が必要とされていることがわかった。若年乳がん患者の情報ニーズ充足度と QOL を定量的に調査し、医療者とのコミュニケーション全般が最も充足されていないことが示された。若年者特有の問題であり、QOL と関連がみられたホルモン療法の有害事象に関する情報に着目し、ホットフラッシュに関する情報をホームページにより発信した。

研究成果の概要（英文）：

The information needs in young breast cancer patients were investigated by focus group discussion. Multidimensional information was required from young breast cancer patients. Unmet information needs and quality of life in young breast cancer patients were surveyed using with structured questionnaire. The highest unmet information need was identified overall communication with medical professionals. The information of side effects by hormonal therapy which was specific information in young patients had related with quality of life. The information about hot flashes resulting from hormonal therapy was exposed through the original home page.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：がん看護学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：看護学、癌

1. 研究開始当初の背景

がん患者に対する有効な支援を提供するために、年齢などの背景因子を考慮したサブグループを特定し、特有のニーズを把握することが必要である。

日本人女性のがん罹患率の第一位は乳がんであり、特徴として、30歳代に罹患率が高まり、40歳代後半にピークがみられることが挙げられる。また、乳がん患者の5年生存率は比較的高いことから、若年の乳がんサバイ

バーが増加していると推察される。更に、若年乳がんは、アグレッシブであること、QOLへの否定的な影響が指摘されている。若年乳がん患者は、若さゆえの心理社会的問題も有することを考慮すると、若年乳がんサバイバーの身体、心理社会的支援のニーズは高い。

乳がんサバイバーの情報ニーズについて、国内の研究において、医学的な情報、心理社会的な支援に関する情報など、様々なニーズが述べられているが、乳がん患者全般を対象としていたり、病気の進行度や特定のトピックを考慮したニーズ調査であるため、若年乳がんサバイバーの情報ニーズは的確に捉えられていない。国外の研究においては、若年乳がん患者への調査により、情動的な困難や患者の関心事、QOL が明らかにされたが、患者が必要とする情報に関するデータは示されていない。

2. 研究の目的

本研究は、若年乳がんサバイバー（45歳以下で乳がんの診断を受けた女性）が、どのような情報ニーズを有するかを探索し、その結果に基づき情報ニーズに応じた支援プログラムを開発することを目的とした。

本研究の目的を達成するため、以下の通り、段階的に研究を進めた。

1) 若年乳がん患者の情報ニーズ調査(2008年度～2009年度)

若年乳がん患者(45歳以下で乳がんの診断を受けた女性)の情報ニーズを明らかにする。

2) 若年乳がん患者の情報ニーズ充足度に関する調査(2010年度)

若年乳がん患者の情報ニーズがどの程度充足されているか、定量的な調査の実施により明らかにする。

3) 若年乳がん患者の情報ニーズに対応する支援プログラムの開発(2011年度)

若年乳がん患者の情報ニーズを満たす情報を広く発信する。

3. 研究の方法

1) 若年乳がん患者の情報ニーズ調査(2008年度～2009年度)

45歳以下で乳がんの診断を受けた女性を対象とした。対象者のリクルートは、患者会とホームページを通じ行われ、呼びかけに応じた52人を研究参加者とした。なお、より若い人とそうでない人が有する問題は異なると考えられたため、研究参加者を35歳以下で診断を受けたグループと36-45歳までに診断を受けたグループに分け、更にそれらの中で4～7人のグループを構成し、グループディスカッションを行った。日程の都合により参加できなかった2人には個別インタビュー

を行った。主な調査内容は、診断時から調査時点までに、乳がんとその治療に関して経験した諸問題、入手しなかった情報や支援とした。

2) 若年乳がん患者の情報ニーズ充足度に関する調査(2010年度)

2つの医療機関のいずれかに通院する45歳以下で乳がんの診断を受けた女性307人へ調査票を配布し、郵送により回収した。主な調査項目は、情報ニーズ充足度、QOLとした。情報ニーズ充足度は、医療者と乳がん経験者より得る情報について、50項目の情報ニーズに対する満足度を「とても満足」「まあ満足」「やや不満」「不満」の4段階評定にて尋ねた。QOLはWHO/QOL-26を用い評価した。

3) 若年乳がん患者の情報ニーズに対応する支援プログラムの開発

2008年度～2010年度に行った調査に基づき、若年乳がんサバイバー特有の問題であり、かつ満たされていない情報ニーズを同定し、ニーズを満たす情報を文献検討により抽出し、ホームページ等で発信する。

4. 研究成果

1) 若年乳がん患者の情報ニーズ調査(2008年度～2009年度)

52人の研究参加者のうち、35歳以下で乳がんの診断を受けた人は30人(調査時の平均年齢38.3±5.2歳)、36-45歳で診断を受けた人(調査時の平均年齢45.5±5.8歳)は、22人であった。年齢および診断時に有していたこどもの人数以外は両群で有意な差は見られなかった。

フォーカスグループディスカッションの結果、研究参加者は、医学的な事柄だけでなく、心理社会的な様々な困難を有していることがわかった。

年代共通の困難として多くの対象者より述べられた内容は、医療者とのコミュニケーションの問題であった。その他、治療の有害事象や後遺症、精神的な苦痛、経済的困難等の困難が述べられた。

若年特有の困難としては、閉経や妊孕性の問題や、親・配偶者・こどもとの関わりなどの困難が述べられた。

本調査結果より、コミュニケーションに関する教育・支援、若年特有の問題に関する情報提供の必要性が示唆された。

2) 若年乳がん患者の情報ニーズ充足度に関する調査(2010年度)

(1) 対象者の概要

230人(74.7%)より回答が得られ、そのうち有効回答が得られた201人(65.5%)を分析対象とした。対象者の調査時点の平均年齢は

45.2±6.6歳、診断時の平均年齢は40.1±4.3歳であった。月経については、調査時点に通常通りである人は43人(21.4%)であり、診断時では179人(89.1%)の人が通常通りに月経を有していた。診断からの平均月数は64.6±63.5ヶ月であり、病期は、0期が13人(6.5%)、I期が47人(23.4%)、II期が67人(33.3%)、III期が15人(7.5%)、IV期が6人(3.0%)、不明が44人(21.9%)であった。

(2) 医療者からの情報に対する満足度

最も充足されていないニーズは「医療者とのコミュニケーション全般」であり、57人(28.4%)が「やや不満」/「不満」と回答した。

医学的な情報については、抗がん剤もしくはホルモン療法による妊孕性、および遺伝に関する情報を得ていない人が、それぞれ95人(47.3%)、97人(48.3%)、96人(47.8%)であったが、それ以外の情報は比較的よく得ていた。

補完代替療法や社会的な支援に関する情報については、「得ていない」人が比較的多く見られ、「運動(エクササイズ)の情報・アドバイス」「栄養・食事の情報・アドバイス」においては、20%近くの人が「やや不満」/「不満」と回答し、「とても満足」/「まあ満足」と回答した人はそれぞれ60人(29.9%)、63人(31.3%)と比較的少なかった。

(3) 乳がん経験者からの情報に対する満足度

全体的に見て、各項目に対し「得ていない」と回答した人が57人(28.4%)~154人(76.6%)であり、医療者と比較すると情報を得ていない人が多く見られた。「治療の後遺症(リンパ浮腫、痛みなど)の経験談」「患者会に関する情報」に対し「やや不満」/「不満」と回答した人はそれぞれ33人(16.4%)であったが、「患者会に関する情報」に対し「とても満足」/「まあ満足」と回答した人は78人(37.8%)と比較的少なかった。

(4) QOL

WHO/QOL26の各領域の平均値は、3.40±0.58~3.57±0.67であり、全体の平均値は3.45±0.56であった。

(5) 情報ニーズ充足度とQOLとの関連

情報に対する満足度について、「とても満足」/「まあ満足」と回答した人を「満足群」、「やや不満」/「不満」と回答した人を「不満足群」とし、QOL得点の平均値に両群間で差があるか、t-検定により確認した。

医療者からの情報に対する満足度とQOLとの関連については、質問38項目のうち31項目において、QOLの全体、4領域のいずれかの平均値に群間で有意な差が見られた。いずれも、「満足群」の方が「不満足群」より平均値が高いことによる有意な差であった。最も充足されていないニーズである「医療者とのコミュニケーション全般」に関しては、「社

会的関係」以外の平均値に有意な差が示された。情報に対し「やや不満」/「不満」と回答した人の割合が比較的高かった項目についても、QOLの全体、4領域のいずれかの平均値に群間で有意な差が見られた。すなわち、これらの情報に満足している人の方が、不満足な人よりQOLが良好ということである。

乳がん経験者からの情報に対する満足度とQOLとの関連については、質問27項目のうち20項目において、QOLの全体、4領域のいずれかの平均値に群間で有意な差が見られた。いずれも、「満足群」の方が「不満足群」より平均値が高いことによる有意な差であった。「やや不満」/「不満」と回答した人の割合が比較的高く、「とても満足」/「まあ満足」と回答した人の割合が比較的低かった「患者会に関する情報」については、QOLの全体、4領域の平均値に群間で有意な差が示された。すなわち、「患者会に関する情報」に満足している人の方が、不満足な人よりQOLが良好ということである。

(6) 若年特有の問題に関連した情報ニーズとQOLとの関連

若年特有の問題として、ホルモン療法による副作用・後遺症が挙げられる。対象者201人のうち、ホルモン療法を受けた人は141人(70.2%)であった。「ホルモン療法の副作用全般の説明・情報」「ホルモン療法による閉経の説明・情報」「ホルモン療法後の妊娠可能性の説明」の不満足群は、それぞれ29人(20.6%)、26人(18.4%)、12人(8.5%)であった。「ホルモン療法の副作用全般の説明・情報」に関して、ホルモン療法の有害事象である更年期障害を有していた人は、60人(42.6%)であり、そのうちホットフラッシュを症状として挙げた人が45人(75%)であった。ホットフラッシュを症状として挙げた人において、「ホルモン療法の副作用全般の説明・情報」に対する満足群と不満足群のQOLの平均値を比較した結果、QOLの全体と心理的領域に有意な差が示された。

(7) 考察

医療者からの情報に関して、満足していない人の割合が最も高かったのは、医療者とのコミュニケーション全般であった。患者が気軽に相談できる場所を設けること、医療者とコミュニケーションをとる方法に関する情報を小冊子やインターネットなどを通じ提供することが必要と考えられた。

医療者より補完代替療法や社会的な支援に関する情報を得ていない人が比較的多く見られた。乳がん患者が医療者へこれらの情報を求めない、あるいは日常生活に関連することであり乳がんの治療やケアとは直接的に関連しないことも含まれているためかもしれないが、運動の情報やアドバイス、栄養・食事の情報やアドバイスについては満足

していない人が比較的多かった。医療者は患者が自ら行えるケアについても適切な情報を提供し、患者のセルフケア能力を高めるために支援することも重要である。

QOLについては、本研究の対象者のQOLは全般的に良好であることが示された。WHO/QOL-26の26項目のうち、最も平均値が低かった項目は「金銭関係」であった。治療の経済的負担が大きいことも推察されるが、若くして乳がんになることによる仕事へ悪影響、子育てへの出費、更に生命保険に加入していない可能性があることなども原因として考えられる。医療者からのMSWの存在や役割の情報、公的な経済支援の情報を得ていない人がそれぞれ69.2%、67.2%を占めていたことから、医療者は若年乳がん患者へ経済的な支援に関する情報を提供することが必要と思われる。

医療者からの情報に対する満足度とQOLとの関連については、情報への満足度を尋ねる質問38項目中、31項目にQOLと関連が示された。いずれも満足している人の方が、QOL得点の平均値が有意に高いという結果であった。おそらく、患者が十分な情報を得ることにより、適切な対処が可能となり、結果的に適応度が高まるためと思われる。特に、ニーズが充足されていない情報においては、全ての情報においてQOLとの関連が示されたことから、ニーズを満たすための策を講じる必要があると考えられる。若年特有の問題として、ホルモン療法による影響に着目し、情報ニーズ充足度とQOLとの関連を検討した。ホルモン療法の有害事象である更年期障害のうち、ホットフラッシュを報告した人が多く、情報ニーズとQOLとの関連も示されたことから、ホットフラッシュに関する情報提供の重要性と有効性が示唆された。

乳がん経験者からの情報に対する満足度とQOLにおいても、情報への満足度を尋ねる質問27項目のうち20項目においてQOLとの関連が見出された。満足していない人の割合が比較的高く、満足していると回答した人の割合が比較的低かった「患者会に関する情報」とQOLとの関連が示されたことから、患者会に関する情報を患者同士で交換し、交流が促進されるよう医療者が場所と機会を設けることが必要と思われた。

3) 若年乳がん患者の情報ニーズに対応する支援プログラムの開発

2008年度～2010年度に行った調査に基づき、若年乳がんサバイバー特有の問題であり、かつ満たされてない情報ニーズとして、ホットフラッシュに着目し、本研究課題において作成したホームページにより情報を発信した。ホームページに掲載する内容は、文献検討を行い、最終的に4文献(欧文3件、邦文

1件)を用い、ホットフラッシュの定義、メカニズム、発症頻度、予防とマネジメントの4項目により構成した。

本研究は我が国において初めて若年乳がんサバイバーの情報ニーズに焦点を当てた研究である。本研究では、若年乳がんサバイバーの情報ニーズを定性的に調査し、更にその充足度を定量的に調査し、QOLとの関連を検討した。これらの調査により得られた結果に基づきホームページを通じ、ニーズを満たす情報を発信したことは、若年乳がんサバイバーを支援するシステム構築の先駆けになったと考えられる。また、本研究により得られた成果は、若年乳がんサバイバーへの支援を検討する際の有用な基礎資料となる。更に、作成したホームページにより、研究に関する情報と研究成果を広く発信したことは、社会に与えたインパクトは大きく、若年乳がんサバイバーを支援するシステム構築の発展に寄与したと考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計4件)

1. 宮下美香, 片岡明美, 大野真司, 村上 茂, 尾崎慎治, 川口英俊, 西村純子, 高橋 都. 若年性乳癌サバイバーの情報ニーズ充足度. 第19回日本乳癌学会学術総会, 2011, 9/2～9/4, 大阪市

2. Mika Miyashita, Akemi Kataoka, Shinji Ohno, Shigeru Murakami, Shinji Ozaki, Hidetoshi Kawaguchi, Junko Nishimura, Mayumi Yamaguchi, Miyako Takahashi. Unmet information needs and quality of life in young breast cancer survivors in Japan. Oncology Nursing Society 36th Annual Congress, 28th Apr- 1st May, 2011, Boston, USA.

3. Mika Miyashita, Miyako Takahashi. Difficulties faced by young female breast cancer survivors in Japan: A comparison of the under 36 year-old and the 36 to 45 year-old female survivor at the diagnosis. 34th Oncology Nursing Society Annual Congress, 30th Apr- 3rd May, 2009, San Antonio, USA.

4. 高橋 都, 宮下美香: 若年患者が直面する心理社会的困難と支援ニーズ—社会文化的背景に基づいた支援策への提言. 第16回日本乳癌学会学術総会, 2008, 9/26～9/27, 大阪市.

[その他]
ホームページ等
<http://square.umin.ac.jp/breast09/>

新聞掲載
中国新聞 17面 2009年9月2日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮下 美香 (MIYASHITA MIKA)
広島大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号：60347424

(2) 連携研究者

高橋 都 (TAKAHASHI MIYAKO)
獨協医科大学・医学部・准教授
研究者番号：20322042